

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2023年4月10日

事業ID:2022001607

事業名:愛知県長久手市における「子ども第三の居場所」

団体名:特定非営利活動法人ながいく

代表者名:田中 直子 印

TEL:0561-41-8145

事業完了日:2023年3月31日

■契約時

事業費総額	:	7,130,000 円
自己負担額	:	0 円
助成金額	:	7,130,000 円

■箇所は【フォーム】収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	7,130,275 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	275 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	7,130,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。

なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1. 愛知県長久手市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間:2022年4月1日~2023年3月31日(週4日、10時から17時まで開所)
(2)場所:愛知県長久手市
(3)対象:課題を抱えた小学校低学年を中心に20名
(4)内容:「子ども第三の居場所」をつくり、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。
合唱・ダンス・工作・菜園作りなど、子どもが取り組みやすいイベントを短時間で実施し、友達や地域の住民と協力して行うことで人間関係の形成をする。

(2)事業完了時の事業内容(実績)

1. 愛知県長久手市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営
(1)期間:2022年4月1日~2023年3月31日(週4日、10時から17時まで開所)
(2)場所:愛知県長久手市
(3)対象:小学生46名
(4)内容:「子ども第三の居場所」をつくり、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する。
工作・菜園作りなど、子どもが取り組みやすいイベントを短時間で実施し、友達や地域の住民と協力して行うことで人間関係の形成をする。



(3)成功したこととその要因

ボランティアを含むスタッフが、協力して運営を行うことができた。また、広く口コミで活動を知ってもらうことができた。コロナなどでスタッフにとって大変なときもあったが、利用者の協力も得つつ、休むことなく開催することができた。

(4)失敗したこととその要因

合唱・ダンスなどは、苦手な子どもが多かったため、開催を中止した。

(5)事業内容詳細

多くの子どもたちにとって、「所属感のある居場所」の提供ができたと感じる。コミュニティモデルとして、週4回の開催としているが、増えている不登校児童への対応等やひとり親児童の長期休暇への対応のため、平均すると週4.5日程度の開所となった。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容3

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況:

(1)助成契約書記載の目標

1. 2023年3月31日までに一日平均利用児童数を20名にする
2. ボランティア等の地域住民や、行政、学校との関係構築、多世代交流機会の提供
3. 子どもの「経験の不足」を解消するようなイベントを事業期間内に60回(月4~5回)実施する
4. 家庭と地域を結ぶことを目的とした「合唱発表会」を、年1回実施する。

(2)目標の達成状況[700文字以内]

入力文字数	268	文字数チェック	OK
<p>1. 2022年度の一日の平均利用児童数は、未就学児を含めて10~15名程度であった。 2. 3校ほどの大学から、多くの学生がボランティアに参加し、2024年も継続して参加してくれることになった。 また、他のNPO法人に所属する学生が、1ヶ月に1度ボランティアとして子どもたちと遊んでくれることになった。 3. アロマテラピー講座・お菓子づくり・工作など、子どもたちの興味に合わせ、毎週1回開催した。 4. 特に不登校児が多かったため、不登校児とカウンセラーとで「座談会」を開催した。大変好評だったため、2024年も開催することになっている。</p>			

※700文字を
文字数チェ
入力のセル

3.事業実施によって得られた成果

ほとんど施設に通うことができなかった不登校児もいたが、一緒に「ぼんぼんに通っている」という所属感があり、保護者からも「相談先があって良かった」と言われる事が多かった。
また、2023年の4月には、長久手市の子ども家庭課・地域共生推進課に1年間の活動報告を行った。令和6年度ごろには、市からの委託事業も検討しているところで、こま目に報告や連携を行ってきた結果だと思われる。

目に見える傾向として、ひとり親家庭の利用者が増えてきたことである。
なかなか困り事を抱える家庭にアプローチすることが難しかったが、知名度が上がってきたこともあり、少しずつ利用者が増えてきている

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

ひとり親などの家庭では、塾や習い事に行けなかったりと、他の児童と比べて学習の機会が少なくなっている。
また、学校での部活動が廃止になり、ますますその傾向が強くなっていくと思われる。
大学生などと協力し、学習支援の充実や、文化・運動の活動を、広く行っていくことが必要である。

今年度は、大学生や地域のボランティアの方にも子どもとの接し方を学んで頂きつつ、機会を増やしていきたいと考えている。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

完了報告書

(2)事業完了時の成果物名称

完了報告書
チラシ 15000部



(3)未作成となった要因

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf (なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)

上記で登録したURLをご記載ください。

ソク欄に「700文字を越えています。700文字以内になるようご調整ください。」と表示され